

杭抜き協会が設立総会開く

代表理事に稲積真哉氏

日本杭抜き協会は10日、東京都千代田区のトラストシティカンファレンス丸の内で設立総会を開いた。代表理事に稲積真哉芝浦工業大学工学部土木工学科教授が正式に就任した。チャッキング工法、輪投げ工法、地盤改良杭工法の3部門で委員会を設置し、既存杭引き抜き時のルールづくりなどを学術的な見地から検討していくことを確認した。

同協会は18年10月に一般社団法人の認可を取得し、今年4月に本格的な活動を開始した。民間の任意団体としてこれまで活動を展開してきた既存杭引抜き協会（桑原秀一会長）と、地中埋設物撤去技術協会（浜口伸一理事長）の2協会が同協会に合流。法人会員62社、個人会員16人でスタートした。



稲積代表理事は「建築物などの既存杭の引き抜きでは、引き抜き技術や引き抜

き後の埋め戻しなど、きちんとしたルールが整備されていない。まずはルールづくりを進めたい」と述べた。会員企業が主役の団体として会員企業同士の情報交換を活発に展開。「委員会活動などを通じ、既存杭の引き抜きに関する技術的な検討や啓発活動を展開していきたい」とした。写真。

委員会活動は、三つの委員会のほかに埋め戻し材料の開発、既存杭の状態を把握できる測定技術、埋め戻し後の調査技術などの委員会を立ち上げる考えだ。

役員は稲積代表理事のほか、専務理事に桑原秀一氏（マルシン）、理事に濱口伸一氏（横浜ライト工業）、幹事に島田義勝氏（島田工業）が正式に就任した。

設立総会後には京都大の勝見武教授による「地球環境リスクとその対応」をテーマとした講演会と懇親会も行われた。

